

第5回 大相撲横浜場所開催記念対談

舞の海秀平氏 NHK大相撲解説者 / 上関康樹氏 全国共済理事長 / (司会)角田 照司 神奈川新聞社企画編集部長

気持ちの強い子に！ 一人じゃないんだ！

昨年の東日本大震災の影響で2年ぶりとなる大相撲横浜場所(10月14日)の開催にあたり、相撲の魅力やスポーツの意義などについて、平成の牛若丸と呼ばれた元小結・舞の海秀平さんと全国共済神奈川県生活協同組合(全国共済)の上関康樹理事長が話し合い、今を生きる子どもたちへ向けて熱いメッセージを送った。 ※文中敬称略



いつまでも忘れない それが私たちの役目

—震災の影響もあり昨年の横浜場所は中止を余儀なくされましたが、被災地復興支援として、どのような活動をされてきましたか。

舞の海 テレビや新聞の取材で何度か被災地へ行きまして。そこで私が聞いたのは「忘れられるのが一番怖い」と訴える被災者の声でした。皆さんは「とにかく話したい」「聞いてほしい」と言います。

—現役時代の舞の海さんは小柄ながら大活躍されましたが、あの多彩な技はどうやって身につけたのでしょうか。

舞の海 技を覚えようとするのではなく、個々の対戦相手にどうすれば勝てるのかを考えました。相手の体格、性格、技の引き出しなどを研究して、弱点を探すのです。

勢いを増す外国勢 変化していく戦術

—2年ぶりに開催される大相撲横浜場所を多くのファンが心待ちにしてます。長く愛され続ける相撲の魅力はどこにあるのでしょうか。

舞の海 真剣勝負でぶつかり合う迫力もさることながら、体が大きく力強い力士たちからパワーをもらうという意味合いもあると思います。とくに地方巡業へ行く、触れ合う事がとても

—大相撲をさらに盛り上げるために力士たちにも求められる取り組みはありますか。

舞の海 震災を機に、日本人の価値観が変わったといわれています。地方巡業だからと生ぬるい気の抜けた取り組みでは見ている人にも伝わっていきません。これからは何かを伝えたいという気持ちを力士がそれぞれ持って取り組まないといけないと思います。言葉だけではなく、力士は力士ならではの伝え方があるはずです。

—今回の横浜場所でも被災地につながっているんだと理解しながら、巡業を行っています。

舞の海 そうですね。被災地は、県民福祉のために活動されていますが、共済制度が生まれた経緯、活動についてお聞かせください。



上関 康樹氏
全国共済理事長



舞の海 秀平氏
NHK大相撲解説者

—国勢の台頭が目立ちます。それにしても、それがいいかがでしょうか。

上関 ロンドン五輪でもそうでしたが、日本の柔道が研究されてきたと思います。

気持ちこめた取り 組みで伝わる何かが大切

—現役時代の舞の海さんは小柄ながら大活躍されましたが、あの多彩な技はどうやって身につけたのでしょうか。

舞の海 技を覚えようとするのではなく、個々の対戦相手にどうすれば勝てるのかを考えました。相手の体格、性格、技の引き出しなどを研究して、弱点を探すのです。

今の厳しい日々を糧に 活気あふれる日本を



力士たちの迫力ある取り組みを横浜場所でも

—全国共済は、「よこはまチャイルドライン」という活動が支援されていますが、それはどのような趣旨からでしょうか。

上関 これは子どもたちの電話相談で、いじめ問題に限らず、どんな悩みでも子どもの言葉を直接聞いて受け止めるフリーダイヤルです。つながることができるところがチャイルドラインです。子どもは気持ちを止めず、伸びやかな一歩を新に踏み出せます。これは全国共済の願いでもあります。この活動の支援を続けています。

—自然災害が頻発しています。

上関 自然災害が頻発している、いじめ問題がよくニュースになったりしていますが、子どもたちに伝えたいのは、今は厳しい日々かも知れないけど、きつければ何かの力につながるんだ、一人じゃないんだという思いを皆で共有してほしい。そして、活気あふれる日本を作っていく、それが私たちの役目です。

—最後に子どもたちへメッセージをお願いします。

舞の海 スポーツでも文化でも、なにかを続けていくことで、気持ちは鍛えられます。力士たちにしても、昔から強かったわけではなく、恵まれた生活を過ごしてきたわけでもありません。それで汗と涙と砂にまみれて、必死に努力してきた人たちが、ただ力が強いだけではないのです。

企画・制作 / 神奈川新聞社クロスメディア営業局